令和6年度　学校自己評価シート（山口学院　霞ヶ関高等学校）

目指す学校像（ミッション）	自由の意味を理解しながら、自ら行動し心身ともに成長できる生徒の育成を目指す。

本年度の重点目標	
	1.　授業や学校行事の工夫と改善に努め、生徒が生き生きと取り組めるように心掛ける。（授業・行事の工夫と改善） 2.　挨拶や礼儀をはじめとする基本的生活習慣の育成に努める。（生活習慣の改善と定着） 3.　進路に対しての考えを深めさせ、希望進路実現に向けた積極的な行動を促す。（進路指導の充実） 4.　ICTを含めた校内環境を整える。環境が人間の成長に重要な事を理解させながら、物事を広く深い視野で洞察できる人格の育成に努める。（校内環境の整備）

	年　度　当　初				年　度　評　価　（３月　）			学　校　関　係　者　評　価
番号	評価項目	現　　状	具体的方策	評価指標	経過･達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	
1	授業・行事の工夫と改善	授業の「分かりやすさ」から更に歩を進め「教科・科目を超えた学びの広がり」に学びの重点を移して行きたい。本校の授業で学んだ事や感じたことが、将来の自己形成に役だったという声が在校生や卒業生から多く寄せられる学校になるため、不断の取り組みで授業の質を高めていく。	各教科を学ぶ中で、他の知識や教養へと興味関心が広がっていく事が大切と考える。そのような教育を行う為にも、教師は専門分野以外の事を学んだり芸術に触れる機会を増やすなど自己の教養をより深める必要がある。	本校で行われる授業や行事は、更に学びを深めようという意欲や、他の分野への興味・関心を呼び起こす工夫がされているか等について、授業アンケートや学校アンケート等を使い検証する。	「本校のスクーリングにおいて学びを深めたいという意欲や他分野への興味関心を呼び起こす工夫が成されている」の質問に対して53%がそう思うと回答があった。また、「行事に対してよく計画されていて楽しいものが多い」に対しては64%がそう思うと回答があった。もう少し学校のスクーリングや行事への参加意欲が欲しい。	B	観点別評価も加わった新課程カリキュラムの完成年度となり、より多くのスクーリングで単元ごとの工夫が必要となっている。その様な中で、生徒を中心としたより充実した授業と行事を作り続けて行けるよう、教科を超えた学習や連携を深めて行きたい。他校の取り組みも研究し、本校独自のものを創り上げていきたい。	良く出来ていると感じます。しかしながら、生徒は苦手なことを避ける傾向にあります。苦手な学習等に対して興味や関心を高められる指導を期待します。また、様々な場面での生徒同士や先生方との交流を通じ、絆が一層深まることも期待します。
2	生活習慣の改善と定着	前年度調査でも、生活習慣が以前よりも改善したと実感している生徒が「とてもそう思う」32%、「やや思う」が31%と、合計で6割を超えていた。同じ調査は保護者からも約9割と高い値が出た。多くの生徒に生活習慣の改善が見られたのは、生徒・保護者・学校との連携が良好だった点も大きいと考えており、この流れを本年度も継続させて行きたい。	校則の極めて少ない学校でこの課題を達成させるには、個々の生徒が良き社会人・成人へと成長する事が重要となる。ゆえに生徒に対しそのような教育をする教師がまず良き成人・良き社会人の見本とならねばならない。教師のコーチングやカウンセリングの力を向上させると共に、倫理観や哲学的素養の充実を図りたい。	教師の言動に大人としての安心感や信頼感を感じる事が出来るか。教師の言動に説得力を感じるか。教師は個々の生徒に寄り添った教育をおこなっているかなどに関して、授業アンケートや学校アンケート等を使い検証する。	「教員に対して安心感・信頼感がある」と思う生徒は72%、保護者は80%となっていて、昨年と同様であった。また、「スクーリングへの積極的に参加している」と回答している生徒は70%、保護者80%となっている。「生徒に寄り添った丁寧な生活指導を行っている」と回答した生徒は89%と高い評価であった。今年度の入学者は97名、退学12明、転出者0名、休学者0名、卒業生数91名、3月1日現在の在籍数220名であった。	A	教員が生徒・保護者に対してより高い信頼感・安心感が得られるよう、学級経営を中心に教科指導、進路指導を更に充実させていきたい。また、教師の丁寧な生活指導には毎年高い評価を得られている。こちらは次年度も継続して丁寧な指導をしていきたい。	生徒、保護者がの一人ひとりが環境を変える意識を持っているからこそ、基本的な生活習慣が整えられているように見受けられます。日々の学校生活の様々な場面で進路活動の意識を生徒に持たせる取り組みが出来ていると感じます。
3	進路指導の充実	進学実績が年々伸びている。本年度も個々の生徒が自らの将来を思い描き進路活動に真摯に向き合う環境を整えたい。そのためには、授業やHR活動その他の場面でチームとして他の生徒や教師から刺激を受け連携して行くことが大切である。スタディサプリやICTの運用をより充実させることによって、その機会を増やしていきたい。	高校生活のあらゆる場面で自らの進路に向き合う環境を家庭・地域・学校とが連携し提供出来たらと考える。社会の現状や将来について、広く・深く学んだ教師から生徒に投げかける言葉や教材が生徒の社会や進路に対する意識を変え成長させて行くという良い流れになって欲しい。スタディサプリや本年度から導入したグーグルクラスルームを有効活用したい。	授業やホームルームなどで教師から発せられる話や言葉は、進路活動や社会で生きていく上での示唆に富んでいるか。進路ガイダンスや面接指導、上級学校見学会等本校の進路行事は自己の進路決定に役立っているかなどを、学校アンケート等を使い検証する。	「スクーリングやHR活動で進路に対して生徒が意欲的に取り組もうという指導や工夫が随所に見られる」に対して、そう思う回答が生徒から70%であった。「教員の話は説得力がある」と回答した生徒は76%、保護者は80%と高い評価を得た。また、「スタディサプリは学習に対して有効に配信されている」は60%の回答であった。進学者数45名、就職者数12名であった。	B	次年度以降も生徒一人ひとりに寄り添い個々に合った進路対策を行い、生徒の希望に叶う進路の実現を目指したい。そのために早い段階（1年生～）に意識付けが出来るよう、学級経営を行い生徒のより良い将来を築いていきたい。	スタディサプリの運用方法は改善されてきているようですが、その有効性が更に高められるよう工夫が必要。生徒が日々のスモールステップを重ねて達成感を感じられるような指導をこれからもお願いします。また、生徒一人ひとりの進路保障がなされるよう今後も全職員で取り組んでいただくことを望みます。
4	校内環境の整備	今年度も校内美化や図書室機能の充実を図る。加えて本年度はICTの運用といった面での環境整備を充実させていく年としたい。具体的には、本年度から利用を開始するグーグルクラスルームの有効活用や、昨年までの活用が不充分であると反省させられたスタディサプリの運用改善などが考えられる。	グーグルクラスルームの運用を充実させ学校と生徒・保護者との情報のやり取りをスピーディー且つ正確なものにしたい。過渡期となる今年度は紙媒体や前年度迄に導入済みのlineを併用し、漏れのない連絡をおこなう。スタディサプリは授業進度とリンクさせた講座を教科担当が配信し、家庭学習の充実を図る。	グーグルクラスルームの活用は学校と自宅を繋ぎ自らの生活向上に役立っているか。スタディサプリは本校の授業の予習・復習や、各々の目標に沿った家庭での学習に有効に配信されていいるかを、授業アンケートや学校アンケート等を使い検証する。	「グーグルクラスルームは便利である」と生徒から78%の回答があった。また匿名アンケートでの生徒・保護者からの高い満足度は、本校の教育に対する一番信頼出来る評価であると考える。次年度のも一人ひとりの生徒に向き合う教育を忘れずに行っていきたい。	A	生徒に対して本年度よりグーグルクラスルームを導入し有効に情報の提供が出来ていると感じている。保護者についても有効な情報提供が出来るよう、考えていきたい。次年度も安心して学べる環境を創り、生徒の学ぶ意欲を高めていきたい。	ラインを廃止することになり、保護者に対して有効な情報提供ができる機会を望みたい。ICTの運用は大切ですが、便利さを追求するあまり、機械ばかりに頼ってしまうことなく、教育の場である学校としての大切な部分は忘れないでほしいと願います。